

0 話

……ぷあーっ！やってられないですよホント……こんちくしょーっ！

街の連中ときたら、ほんつとに……度し難い……！

今すぐ全員酒樽に入れて、坂の上から突き落としてやりたいですよ……！

くあーっ……私に金と権力と地位があれば……！

私を裏切った連中なんて、全員地下で労働させられるのに……なあんて私ばっ

かりこんな苦勞せにゃならんのですか……！

はあ……お金欲しい……けど働くのはヤダ……今世紀最大の矛盾

くそお……今からでも黒魔術極めちゃおうかな……絶対に靴の踵が潰れる魔法

でもかけて回ろうかな……ん？

なんれすか、あなた？お客さん？

なんか騎士みたいな恰好してますけど……随分とボロボロですねえ

街の騎士団の人じゃないみたいで安心しました……じゃなくて、あなた何こっ

ち見てるんです？

私は見世物じゃないんですよお

落ちぶれた聖女を見てなにが楽しいってんだこんにゃろー

ひっく……あー、ふらふらする

流石にイッキはまずかったか……でもそうしないとやってられないしなあ……

まあいっか！

先のことは先の私に任せてもう一杯……ん、なんれす

なんか文句でもあるんですかぁ、私のことジロジロ見ちゃって

だいたいこんな森の中に何の用があるんですか

用がないんならどっか行ってくださいよ

ま、私と話したいって言うなら話は別ですけどー

ここ、普段誰も来ないから話し相手もないし？来るのは動物ばっかだし？

私ここ一ヶ月誰とも話してないし？

そんな私と話したいっていうならこっち来てください

酒ならタダであげますし、今ならなんと私のお酌付きですよ

ま、元聖女のお酌なんて碌なもんじゃないか……ふふっ、自分で言っててなんか

笑えてきた

ほら、来るなら来る、帰るなら帰る

早く決めてくださ……はい？帰る場所なんてない？

……今日パーティを追放されたばかりなんですかぁ？

ふーん……そうなんれすかぁ……ふーん

どーりでボロボロなわけですねえ……顔色も暗いし

ショックで街から逃げ出して、森を放浪してたって感じですか？

頭にめっちゃ葉っぱついてますよ。鎧にも土埃がたくさん

じえーんじえん騎士に見えませんかえ……私も聖女には見えないでしょうけど

んー……それで絶賛傷心中って感じですか、おいたわしや

でもまあ、そういうことぐらいありますよ

私も街の人達に裏切られましたもん

初めは聖女聖女って持て囃してたのに、力が使えなくなったらポイですよ

私は消耗品じゃねーってんですよ、まったく

無給なうえ休み無しでやってた私もアレですけど……今となっちゃ黒歴史です

よ、ホント

そーして人間のくそっぷりに絶望した私は、こうしてお酒バカ飲み黒聖女とな

ったわけですが……どうです？あなたも落ちぶれ黒騎士になってみては

きっとスッキリしますよ……たぶん

ま、今のは冗談ですけど……え？今なんて言いました？

じゃあそうしてみるって……本気ですか？

こんな酔っぱらいの妄言を鵜呑みにするなんて、あなたさてはおバカさんですか

……ここに住むのは、別にかまいませんけど

古いですけど、館の中は一応掃除してますし

食料もまあ、畑だったり狩りだったり、やりようはいくらでもあります

井戸もありますよ。山水が流れてくるので中身は綺麗です……って、本当にここに住む気なんですか？

住んでる私が言うのもなんですけど、ここだいぶ住みづらいですよ

あなたがいいなら別にかまいませんが……んー……どうやら本気みたいですね

じゃあとりあえず、前金代わりに私にお酌をする役職に就きなさい

うへへ……ここに住むと決めた以上、家主の言うことは絶対ですよ

そんじゃまあ……よろしくお願いしますね、落ちぶれ黒騎士君

1 話

んー……今日はとってもいいお天気ですねえ

まさに洗濯日和って感じです

空気もぽかぽかしてて眠くなっちゃいそうーって、あなた、何をそんな引きつった顔してるんです？

私の何が変だっつーんですかこんちくしょー

なに？なんなんですか？

せっかく私が片田舎の清純幼馴染みたいな言動してあげてるのに、何が不満なんですか

は？裏の顔知ってるから、今さら清純面されてもキツイ？

見苦しくて吐き気がするって……いや言い過ぎでしょ！

見苦しいまでは許容できても吐き気がするは許容できませんよ！

見た目は美少女なんだから別に吐き気はしないでしょ！

いくら内面がカスだからって！

……ってか、言うほど私の内面ってカスですかね

街の人間に比べたらかなりマシに思えるんですけど

……あ、ですよー

やっぱり街の連中に比べたら、かなりマシな方ですよ

私もあなたも、そんな連中に嫌気が差してこんなところまで来たんですもんね

はあー……ほんつとに……世の中ゴミ人間ばっかですよー

全員燃やしたいですねっ♡

あ、すいません

聖女時代のクセで、つい明るく言ってしまいました

多分聖女続けてたら私、笑顔で街を焼いてたかもしれません

でもまあ、しゃーないですよえ……こんなに私達を追い詰めた連中が悪いですよ

頼るだけ頼って、用が済んだらポイですもんね

あなたもここに来た時、この世の全ても憎んだ顔してましたよ？

1年経った今は悪態もつけるくらいになってますけど、あの時のあなた、何を言っても「ああ」と「悪い」しか言ってませんでしたよ

ピキピキのガラスみたいな目してましたし、首もずっと斜めで俯きっぱなし

私、この人首にハリガネ仕込んでんのかな？ってガチで考えてましたもん

上を向くのなんてお酒をあおる時だけ……とんだ不健康人間ですね

まあ今は？私が甲斐甲斐しくお世話したおかげで？

真人間になっちゃいましたけど？

……あの時と比べたらホントにマシになってますよ、あなた

人間、自然と動物と美少女に囲まれるだけで元気になれるんですねえ

私みたいな闇堕ち黒聖女、なかなかいませんよ？

あなたはもっと私に感謝するべきです

私をぎゅっと抱きしめて、イケボで好きだよ……とか吐息多めで言った方がい
いです

そしたら私の幸福度も爆上がり……って、そんなのあなたには似合いませんね

ていうかあなたのイケボって……イメージしただけで笑いが……ぷふっ、中々
にキツ……ちょ、痛い痛い！

頭ぐりぐりするのやめてください！

指が頭蓋を貫通してトンネルできちゃいますよ！

あなたそんなに自分のイケボに自信あったんですか！？

見栄を張るのはよくないですよ……ごめんなさいごめんなさい！

もう言わないからやめてくださいってば！

……は一、全く

こんな可愛い女の子に暴力振るうとか、世が世ならあなた斬首刑ですよ？

火炙りからの水責めからの生き埋めからの斬首刑ですよ？

あなたには私の処刑フルコースをお見舞いしてもいいんですけど……まあ、今

回は許してあげます

……あなたに触れられるの、嫌じゃないし

……は？なんです？

聞き取れなかったからもう一回言ってほしい？

そういう鈍感系リアクションはもういいんでさっさとあっち行ってください

今日の朝食当番はあなたでしょ？

私が火を焚いておくので、あなたは早く食料の調達に行ってください

早くしないとあなたごと火にくべますよ

ほら行った行った

……ふんだ、察しの悪い人

素直じゃない私も悪いけど……鈍感すぎるあの人も悪いですよ

こうなったら回り道せず、ドカンと一発告白した方がいいんですかねえ

あーでも恥っず……というか、なんで私の方から告らないといけないんですか

あっちの方から告ってくれば……でもそんなのいつになるか分かんないし…

…ぐあああ……！

こんなん言ってるから私は……！

はあ……やーめた

私は黒聖女なので朝から酒飲んで気を紛らわせます

良くないことなのは分かってますけど……でも、仕方ありません

それもこれも全部、あの人のせいなんだから

2 話

あら、おはようございます

と言っても、もうお昼近いですよ？

今日は随分とお寝坊さんですね……昨晚何かしてました？

……妙な胸騒ぎがして眠れなかった、ですか？

あなたが来たばかりの頃は悪夢で飛び起きる、なんてしょっちゅうでしたけ

ど……それとはまた別なんですか？

ふーん……なんなんでしょうね

今日は曇ってて暗いし、そのせいで不安な気持ちになってるんですかね？

もしまだ不安なようでしたら、私が胸を貸しますよ？

男性は常に母性に飢えていると聞いたことがありますし……ここには私しかい

ませんから、存分に甘えちゃってください

その醜態は私の脳内に永久保存しておくので

……ふふ、冗談です

怖いなら怖いと素直に言ってください

それを情けないと言う人は、ここにはいませんよ

ほらほら、早くこっちに……

……え？

ノックの、音？

私がここに住み始めてから、お客さんなんて誰も来たことなかったのに

……配達、でしょうか？

でも、こんな山奥に届け物なんて……と、とりあえず、出てみますね

あなたはここで待っていてください

はい、今出まーす！

全く……いい雰囲気だったのに……

よいしょ、と……はい、どちら様でしょうか？

え、と……あなた、は……？

は、はい……？ 転生者の剣士様、ですか……？

あの、何用得……？

魔女討伐の任務を受けてここに来たって……い、一体、何のことですか

魔女なんて、ここにはいませんけど

……て、え！？あなた、どうして急に出てきたんです

お知り合いの方、なんですか？

なんだか陰悪な雰囲気ですけど……どういう方なんです

ご友人のように見えませんが……え？

この方が、あなたをパーティから追放した方なんですか？

その方がどうしてこんな山奥に……ちょ、い、痛いですって！

いきなり引っ張らないでください！急に訪ねて来て、何なんですか！

初対面の人に、いくら何でも失礼すぎますよ！

早く手を離してください！

そもそも何をしに……は、はぁ？住民達からの依頼を受けて来た、ですか？

数年前から森の館に魔女が住み着いているから、退治してきてほしいと……そ

う、言われたんですか？

な、なにそれ……私、何も怪しいことしてません！

それに魔女だなんて、言いがかりも甚だしいです！

魔女なんていなかったと、そう説明してください

あなたのことは存じ上げませんが、身なりを見れば地位の高さはある程度分かります

この館には、身寄りのない人間が二人細々と暮らしているのだと……そう、伝えてください

あなたがそう言うてくだされば、住民の方も納得してくれるのでしょうか？

でしたら是非お願いします

私達はただ平穏な暮らしをしたいだけ……きゃっ！？（転生者がヨルカの首に腕を回す）

ちょ……くる、し……！息が……かはっ……！

とりあえず連れていくって……一体、どこに……！

んぐっ……わ、分かりました……！分かりました、から……！

その人には、手を出さないで……！手を出さないでください

私にとって、大事な人なんです

だから、どうか……その剣を、収めてください

あなたも、どうか今は怒りを抑えて……！

お願い、だから……私は大丈夫、だから……！

は、はい、ちゃんと従いますから

剣士様の言うこと、ちゃんと聞きますから

だから、これ以上その人を傷つけないで……！

は、はあ……よかつ……あんっ！？

え……い、いきなり何を！

ちょ……んんっ！？胸弄るの、やめて……！

そんなこと、許可した覚えはないですよ……！

ちから、つよ……うあっ！

あ、あなた、私のことは心配しないでくださいね！

ちゃんと、ちゃんと無事に帰ってきますから！

だから、どうか……自分を責めないで、ここで待っていてください！

これは全部、私の責任ですから

あなたは何も、悪くないんですから……！

だから……待ってて

3 話

……あ、ただいま帰りましたー

あなたの大好きな黒聖女ちゃんが帰ってきましたよー……って、うわ！

いい年した成人男性が凄い勢いで突っ込んできた！

ちょ、ちょっと落ち着いて……近い、近いですから……

その、私のことが心配だったのは分かりますけど、グイグイ来られると心臓に悪

ってというか……ケガとかもしてませんから、そんなに詰め寄らなくても大丈夫

夫です、はい

あなたの黒聖女ちゃんは、ちゃんとここにいますからね

だから大丈夫……何があったのかも、きちんとお話しますから

ですから、その……寝室の方に行きませんか？

私、すごく疲れちゃってて……気を抜くと眠ってしまいそうなので、いつ私が寝

落ちしてもいいように寝室でお話しましょう

その、言いづらいこともあるので、リビングで面と向かって話すよりは寝室の方

が……ね？

……はい、では参りましょうか

んー……久しぶりの我が家のベッド……！

元から置いてあったオンボロではあるんですけど、なんか愛着あるんですよね

この館を空けたのは三日ですけど、なーんか久しぶりな感じです

あなたに会うのも三日ぶりですけど……顔、少しやつれました？

ふふ、捨てられた子犬みたいな顔しちゃって

私があなただを置いてどこかに行くわけじゃないじゃないですか

あの日、私が剣士様に連れ去られたのには……それ相応の理由があったんです

あなたにとっては結構ショックなことも言っちゃうかもですけど、それでも…

…聞いてくれます？

……うん、良かったです

覚悟決まった顔してますね

ではでは、早速話していきましょうか

んー、まずは……そうですね、私が連れ去られたあの日のことをお話します

転生者の剣士様が急にここに来た後、私は……山のふもとにある村に連れていかれました

その村には、剣士様に魔女の討伐任務を依頼した方々がいて……拘束された私を見て、安堵の息を吐いていました

なんでもその村の方々は古い言い伝えを信じてらっしゃるようで……森の館で暮らす部外者の私を、魔女だと噂していたようです

初めは怖かったのか様子見だけだったみたいですが、偶然通りかかった剣士様に頼み込み、討伐の流れになった……そういうことみたいです

もちろん私は村の方々には迷惑をかけていませんでしたよ？

ですが村の方々は私の存在が恐ろしいみたいで……あなたのことも、魔女の従僕だとか言っていました

ホントはただの寂しがりの……落ちぶれ騎士さんなんですけどね

……そうして私を捕えたことを村の方々に報告した剣士様は、私をとある小屋に閉じ込めました

集落から離れた場所にあって、小屋の周りは柵で覆われてて……牢獄、みたいな感じでした

何をされるのか分からない恐怖で震える私に、剣士様はこう言いました

今日から三日間、懲罰を受けてもらう……と

その時の剣士様のニヤついた顔、今でも忘れられません

ゲスってこういう人間なんだなって……心の底から思いました

小屋の中には簡易的なベッドと家具が数点あって……拘束を解かれた私は、
椅子に座らされました

私の真正面に座った剣士様は、ニヤニヤ笑いながらこう言いました

今から乳首当てゲームをするぞ、と

私の脳内はハテナでいっぱいでしたが、剣士様はかまわず続けました

どうやら剣士様は、村の人達ととある約束を交わしていたみたいです

女を斬るのは趣味じゃない、だからあの魔女は斬れない

その代わり三日で……あの魔女を飼い慣らして、無害な存在にしてやるって

ホントに身勝手に最悪でゴミクズ……どうやらあの剣士様は、私に好き勝手する
ために依頼を受けたみたいです

依頼を建前にして、私の身体を遊ぶ……それが剣士様の目的だったようです

あなたが話していた通り、本当のカス人間でした

でもその腕は本物……

私は剣士様の言うことを聞くしかありませんでした

乳首当てゲーム、というのは名前の通り、その……交互に胸を触りあって、乳首
の位置を当てる、という遊びでした

そんな低俗な遊びはしたくなかったですし、あなた以外の人に身体を触られる

なんてホントに嫌だった……でも、剣士様は待ってけません

最初は私の手番でした

でも、男性の乳首の位置なんて全然分からないし、緊張もあって……私は位置を

外してしまいました

ですが、剣士様だってそう簡単には分からないはず……と思いながら、手番は剣

士様に回りました

その、次の瞬間です

私の身体に、びりびり、と電気が走りました

胸から甘い刺激が流れてきて、私は軽く背中をのけ反らせて「あっ……♡」と声

を漏らしてしまったのです

何が起こったのか分からず目を向けてみると、剣士様が私の乳首の位置を正確

に当てていました

卑猥な手つきで、私の乳首をきゅっ……と摘まんでいたのです

慌てて自分の口をおさえましたが、すでに遅く……剣士様は、そのゲスな笑みを

より深くしました

剣士様は私の反応を見て楽しくなったのか、そのまま私の乳首を弄りはじめました

ただ乳首の位置を当てるだけの遊びだとおっしゃっていたのに、そんなことなど無視して……服越しに私の乳首をカリカリ……コリコリ……きゅうう……つて、いじめてくるんです

私、元は聖女でしたから快楽をほとんど知らなくて……胸から流れ出す刺激に、ずっと戸惑っていました

口をおさえても「あ……ん……♡」とか「はぁっ……ふううっ……♡」とか、声がもれてきて……抵抗しようとしても、力じゃ全然かなわなくて……

必死に声を我慢しながら、耐えていました

でも剣士様はとても手馴れているようで……服越しなのに乳首の位置を完璧に把握して、焦らすように乳首のまわりを何度もなぞってくるんです

その度に私、身体をびくんって反応させて、だんだん内股になっていって……逃げようとしても凄い力でおさえつけられる

それが30分くらい続いた頃でしょうか

私、完全に声が抑えきれなくなって「うあああ～～……♡♡」「んっ、んうううっ、うんんん～～♡♡」って切ない声出しちゃったんです

剣士様はそれでさらに調子づいたのか、私の下着をずらして、より直接的に乳首を責めてきたんです

何度も引っ張って、こねて、つまんで……おもちゃみたいに、ずっとしつこく責めてくるんです

魔法で腕を椅子に固定されて、抵抗できない私はひたすらに乳首をいじめられて、切ない声をあげ続ける

そのうち、大きな刺激が身体全体に流れ始めて……身体がびくんって跳ねて、頭が真っ白になっちゃったんです

剣士様は「こいつ乳首イキしやがった」って笑ってて……私、何が起きたのか分からず呆然としてました

その、どうやらそれを「イク」というみたいで……これまでの人生で、初体験のことでした

でもこれでようやく終わった、そう思っていたのですが……剣士様は荒い呼吸をする私に近づくと、胸の衣服を全てずらしたのです

すると胸が露わになって……私って着やせするタイプなので、直に見ると私の胸って大きいみたいで……剣士様、凄く興奮してました

まだ呼吸が整わない私の胸を鷲掴みにして、ずっとこねくり回して……私の

乳首、完全にぴんって立っちゃったんです

限界まで張りつめてて、乳首ってこんなになっちゃうんだって……初めて知り

ました

でもそれも束の間、剣士様は先ほどより卑猥な手つきで乳首をいじめ始めたん

です

私はもう限界だったのに、剣士様にとってはここからが本番だったようで……

そこから先のことは、あまり覚えていません

私の後ろに回った剣士様が、牛の乳絞りのように乳首を絞ってきたり、乳首の奥

まで指を突っ込んできたのはなんとなく覚えていますけど……

その後はもう、聞いたことのない私の声がずっと小屋の中に響くのを聞くだけ

でした

私、元は聖女なのに……品の無い下品な声ばかり聞こえてきて

「いぐっ、ああああ～～♡♡いぐうっ、いぐいぐいぐ、い、ぎゅ……！」とか

「あ～～乳首むり、ホント無理、乳首やだ、やめて、乳首おかしくなる、乳首壊

れるってええ……♡乳首むりいいい……♡♡」とか

私の胸、徹底的におかしくされちゃったんです

だって、ほら……あなたも一目で分かったでしょう？

私の乳首、目立つくらいおっきくなってるって

その……乳首責めは毎日されてて、気づいたらこうなっていました

あなたにはこんな下品な姿見せたくなかったんですけど、ね

でも、いくら抵抗しても剣士様はやめてくれないし……私の意識が目覚める頃

には、部屋は熱気と私の淫らな匂いでむせ返っていました

私、股広げっぱなしで荒い呼吸してて……ずっといじめられてた胸が、だるんっ

て垂れてました

これが……一日目にあったことです

乱暴なことはされませんでしたし、食事や寝床もきちんと用意されていました

ただ、執拗なまでに乳首をいじめられただけ……剣士様にされたことは、たった

それだけなんです

ですので、あなたが思うような酷い扱いはされてないんですよ

だから安心してください

あなたの黒聖女ちゃんはどうしてあなたの元に戻って来たのだと……それを強

く、感じてください

……ふふ、こんな話を聞いていたら、心が疲れてしまいますよね

でしたら、もう眠ってしまいましょう

というか私ももう限界でして、そろそろ倒れてしまいそうなんです

続きの話はまた明日してあげますから、だから、今日はもう……おやすみなさい

4 話

あら、おはようございます

今日は随分深く寝入っていましたね

私が無事に帰ってきて、緊張の糸が切れたんでしょうね

というか、そーんなに私のことが心配だったんですかぁ？

ふふ、仕方のない人ですね

ま、でも確かに……あなたが急に連れ去られたら、私も居ても立っても居られな

くなったでしょうね

あなたがいるのは当たり前じゃないんだなって、そう思いました

……ところで、あなたはいつまでそこにつっ立ってるつもりですか

早く座ってください、私の手料理が冷えてしまいますよ

顔もさっき洗っていたでしょう？ だったら早く……え？

（主人公の股間が膨らんでいるのを見る）

ちょ、え！？ あ、朝からナニをおっ勃ててるんですか！？

て、あなたってアソコが勃たないって前に悩んでませんでしたっけ……？

どうして、今になって……

え？昨日の私の話を思い出してたらそうだったって……それ、どういう……

も、もしかして、私が他の男の人に好き勝手されてることに、興奮したんですか？

それって、噂に聞く寝取られ性癖ってやつですか……？

うわ……あなたってそんな変態さんだったんですね

知りませんでした……ド変態、クズ、バカ、おたんこなす

なんかムカついたので取り合えず悪口を言っておきます

私といた時はそんな素振り全然見せなかったくせに……私が他の男にいたずらされると、そんなに興奮するんですか？

もー、ホントありえないです……信じられない……

信じられない、ですけど……そんなに興奮するっていうなら、また……話の続き、してあげましょうか？

三日間の間にあったこと言わないと、あなたの不安も晴れないでしょうし

どうせ話すつもりでしたから、別にいいんですけど……なーんか腑に落ちませんねえ

ふんだ……ご飯食べ終えるまで待ってあげますから、早く済ませちゃってください

私が不機嫌にならない内に

さて、変態さんの準備はもう整ってるみたいですね

あんなに私のこと心配してたくせに、私が好き勝手された話で興奮するとかマジでありえませんが……

それがあなたの性癖だっていうなら、何も文句は言えませんね

私の話を聞いても、聞かなきゃよかったって後悔しないでくださいよ

後悔しないって言うんなら……二日目にされたこと、お話します

ちなみに言うておきますが、二日目の内容は一日目より酷いですからね

剣士様は、いけると思った相手は徹底的にいじめ抜くタイプのようなので……

…日をまたぐごとに、その酷さも増していきました

あの人、マジで容赦って言葉を知らないみたいなので

じゃあ早速話していきますけど……二日目に行われたのは媚薬ポーションゲームというものでした

これもまた、全く聞き覚えのないものです

媚薬とポーション、この二つにどんな関係があるのか……全く想像が付きませんでした

二日目、疲労の抜けない私を起こしに来た剣士様は、機嫌よさそうに小瓶を机の上に並べ始めました

それが何なのか尋ねると、剣士様はポーションだと答えました

しかし十個並べられたポーションの内、五つは媚薬

色は全く同じだけど、その中身はどんな気丈な人間でも狂わせる強烈な媚薬…

…普段からよく使ってるものだって剣士様はおっしゃってました

なぜそんなものを持ってきたのか困惑する私をよそに、剣士様はポーションの瓶と媚薬の瓶の位置をシャッフルしていきます

それが終わると、こう言い放つのです

今からこの小瓶を交互に一つずつ飲んでいく

より多く媚薬を飲んだ方が負けだ、と

その媚薬は同じ量のポーションで中和できるらしいのですが、重ねて飲むとより

強い効果を発揮する……つまり一度媚薬を飲んでしまったら、その次は必ず

ポーションを選ばないといけないんです

でないと、どんどんと媚薬が積み重なっていった……ポーションで中和できる量を超えてしまう

他に勝ち筋があるとしたら、ポーションを連続で選び続けることくらいでしょうか

でも、それはあまり現実的じゃない

そしてそんなことを考えている内に、剣士様はその遊びを始めてしまいました
選ぶのは私からだったんですが、どれがポーションなのか分かるわけもなく…
…ただてきとうに選びました

ですが幸運にもそれはポーションだったようで、私は難を逃れました

そして次は剣士様の番……彼は自分の番が来た瞬間、すぐさま小瓶を選びました

まるで答えを知っているかのようでした

しかし彼はそれを飲んだ瞬間、突然胸を抑えてうなり始めたのです

小瓶を床に落とし、苦しそうな声をあげて悶えていました

あの屈強な剣士様が、少量の液体で悶え苦しんでいる……彼が選んだのは媚薬なのだと、その時理解しました

その効き目の強さに恐ろしくなった私は、より慎重に小瓶を選ぶようになりました

その甲斐あってか、私は二回目もポーションを選ぶことに成功しました

身体の中に温かい感覚があふれ、まるであなたという時に感じるような……強い安心感を覚えました

ですが私とは対称的に、剣士様はまたもや媚薬を選んでしまいました

彼は再び苦しそうな声をあげると、地面に倒れて満身創痍といった様子でした

顔には汗が浮かんでいて、会った時のような余裕なんて一切ない

震える脚で席に戻ると、続けろ、とそうおっしゃいました

私はこうなりたくないと思いながら三つ目の小瓶を口に運び、そして……ついに、媚薬を飲んでしまいました

三度目の奇跡は起こりませんでした

その液体が喉をつたって流れた瞬間、いきなりお腹のあたりが熱くなって……

昨日散々いじめられた乳首がぴんって張りつめたんです

何が起こったのか分からないまま血流がどんどん早くなって、汗がたくさん溢れてきて、服を着てるのに裸にされたみたいな感覚になって……気づいたら、その……イって、ました

机に突っ伏して、荒い呼吸を繰り返しながらお汁を垂れ流して……「うー……あーっ……」って、低いうなり声をあげてました

こんなのを何度も飲んだら身体がもたない

次は絶対にポーションを飲まないと……私の頭に浮かんだのはそれだけでした

これまでで私が一本、剣士様が二本の媚薬を飲んでいます

残りは二本、ここから先は絶対に間違えられない……そんな状況です

ですが剣士様はそんなことを考える素振りすらなく、選んだ小瓶を勢いよく飲み干します

そしてそれを飲み終えると、下卑た笑みをこちらに向けてきました

それは自分がポーションを引き当てた故の余裕だと思っていたのですが、なんだかそうではないような……とても悪い予感がしました

でも、私はただ選ぶしかありません

残りは媚薬が二本、ポーションが二本……確率は二分の一です

私は覚悟を決めて小瓶を選び、そして……二本目の媚薬を飲むことになりました

口に注いだ瞬間、一度目を上回る刺激が身体中を走り、背筋が震え、脚が勝手にぴんと伸びて……私は必死に机にしがみついていた

口からもお股からも汁が止まらなくて、椅子の下にはいつの間にか水たまりができていました

だんだんと声も抑えきれなくなって、「あんっ……あっ……！あっ……♡あゝ
あゝ ああ……♡♡」ってはしたない声をもらしてました

その快樂がおさまるまでの時間は覚えていませんが、私が悶えている間に剣士
様はもう小瓶を飲み終えていました

けろっと、平気そうな様子で

もしかして残ったポーションを選ばれてしまったのかと焦る私に、剣士様は
何事もないように言い放ちました

「ほら、早く飲めよ。残ってるのは全部媚薬だから」と

混乱する私に対して、剣士様はあの下卑た笑みを浮かべました

その時、私は全てを悟りました

初めから全部仕組まれていたのだと

前提条件から間違っていたんです

剣士様の演技にすっかり騙されていた私は、媚薬は剣士様にも効くのだと思っ
ていました

ですが、そんなことはなく……剣士様にとってあの媚薬は、ただの精力増強剤の
ようなものだったんです

一回目と二回目も、ホントはポーションを選んでいたのに媚薬を飲んだふりをしていたんです

それは私の安心を誘い、卓上からポーションを無くす為の罠でした

結果、残った小瓶は全てが媚薬

二連続で媚薬を選ばされた私の身体は限界なのに対し、剣士様のアソコは大きく隆起していました

媚薬を中和するポーションももう無い……私はもう、三本目の媚薬を飲むしかなくなったのです

そしてためらう私を見てじれったくなったのか、剣士様は私の身体をおさえ強引に媚薬を口に流し込みました

で、その後なんですけど……その、これ

これ、音声を記録する魔具らしいんですけど……その時の様子を、剣士様が記録してみたいで

是非あなたに聞かせてくれって、頼まれてたんです

その時のこと、ほとんど記憶に無いから私も聞くのは初めてなんですが……

心の準備は、いいですか？

じゃあ……再生、してみますね

はあっ、はあっ……け、剣士様、あなた、最初から……最初から仕組んでたんですか！？

媚薬が効いてるふりなんかして、ポーションを全部無くして……私に連続で媚薬を飲ませるための、罠だったんですか！？

最っ低……！あれだけ公平にやるとか、約束は守るとか言っておいて……全部、自分に都合のいい嘘じゃないですか！

ホントにあなたってクソ野郎ですね……あの人とはまるで比べ物にならない人間のカスな部分を寄せ集めたような人……あなたのような人がいるから、あの人や私が辛い目に……！

媚薬なんて飲みません！

こんなルール、今さら守ったって何の意味が……んぐっ！？

んんっ、んむぐ……！ん……うんんっ……ん……んんっ！？

ああっ！からだ、が……熱、いい……！焼けちゃ、うう……！

これ、ヤバい……！呼吸するだけで、快感、が……！

はっ、はっ、は、ああ……！ホントに、ホントにヤバい……！

身体全部が性感帯になったみたい……ひうんっ！？

ちょ、ちょっと！乳首、乳首触らないでください！

いま、身体ホントにおかしくなってて……うゝ うゝ んっ♡♡

あゝ あゝ ～♡♡やめっ、やめろってええ……♡

やめろって言ってんでしょうがぁぁ……♡♡あがっ♡♡

乳首カリカリすんな……♡うゝ あゝ あゝ ～♡♡乳首触んなくてええ……♡

あゝ んんゝ ～♡♡やめっ、やめろっ♡やめてっ♡ぐあゝ あゝ あゝ あゝ っ♡♡

マジでいい加減にしろよおお～～♡♡あぐうっ♡♡あ、アソコ触んな♡

アソコ触んなよバカぁぁ～～♡♡もう何回もイってんの♡

乳首だけで何回もイってんの気づいてるだろうがぁぁっ♡♡

あゝ ～♡♡イグっ♡いぐいぐいぐう……♡♡

こんなクソ男にイかされるとかマジさいあ……くうっ♡♡

もおイった♡イったからっ♡♡だから離せ……離せよおおっ♡♡

あぐうううっ♡♡乳首とアソコいじんのやめろっ♡いぐっ♡すぐイぐっ♡

ひうううっ♡♡みみ、耳噛むなぁ♡きもいつ、きもいつてえ♡♡

いきがかかって、ぞくぞくって……あゝ っっっ♡♡

イった♡イきましたぁ♡もう無理、もうやめて♡♡

触られてるとこ全部気持ちいいって♡ホントばかになるからっ♡

死ぬっ♡イキ死ぬっ♡♡なんかヤバいのきて……あゝ あゝ あゝ っっっ♡♡♡♡

あ……記録はここまでみたい、です

えっと、その……すごかった、ですね

私、聖女の頃のクセで敬語使ってますけど……余裕が無くなると、こんな感じに

なっちゃんです、ね

自分も、知らなかったです……

あの、その……今日は、ここまでにしておきましょうか

あなたも、すごく疲れてるみたいですし……続きはまた後日、ということで

わ、私は、薪割りに行ってくるので……あなたは、ゆっくり休んでてください、

ね……

5 話

んー……珍しいです、ね

あなたがこんな夜更けに私を呼び出すなんて

寂しかったんですかー？このこのー

そんなに寂しがらなくたって、私はいなくなりますから大丈夫ですよ

あなたが嫌がったって、いつだってあなたにまわりついてあげます

あなたのような落ちぶれ騎士には、私のような黒聖女が必要なんですから

でもまあそれはそれとして……一体、どうしたんです？

ホントに寂しいだけなら私が添い寝してあげれば済む話なんですが……え？

大事な話、ですか？

はい、いいですけど……はあ……ふんふん……あー、なーるほど、そういう話で

すか

うんうん……ふーむ

簡単にまとめるとアレですか？

このまま寝取られ性癖を引っ張ってたらヤバいって話ですか？

あはは！だってそういうことですよ？

これから私と一緒にいるうえで、そんな性癖を抱えてたら上手くいかないって
ことですよ？

そりゃそうですよ

自分が他の男にいたずらされるのを見て興奮するなんて知ったら、その人のこ
と軽蔑しちゃいます

まあ私は寛容ですからギリ許容出来ちゃいますけど、それがずっと続くとなる
と……愛想、尽かしちゃうかもしれませんね

あなたが他の人を上書きするくらい私を愛してくれたら、そうはならないでし
ょうけど

ていうかそもそも……あなたは、私のこと好きなんですか？

私は……まあ、好きですけど

あなたはどうなんで……あっ

あはっ……そんなに強く抱きしめなくたって……分かってますよ、あなたが私
を好きだってこと

じゃないと、こんな相談しませんよね

私とずっといたいから、その性癖をどうにかしなきゃって思ってるんですよ

そして、今日を最後にその性癖を封印する……そういうことでしょ？

ふふ、言わなくたってなんとなくで分かりますよ

好きな人のことは、ちゃんと見てますから

だから、ほら！

とっとと済ませちゃいましょ、最後の報告

私が三日目に剣士様にされたこと全部報告して……それで、最後にしましょう

その後は剣士様のことなんか忘れて、たくさんイチャイチャしちゃいましょ

だから、ほら……早くベッドに座ってください

これで全部……終わりにしましょう

よし、じゃあ早速お話していきましょう

私が三日目にされたことについて……三日目に行われた、寝取られ懺悔ゲーム

について

……んー……あなた今、嫌な予感がする、と思ったでしょ

その予感、当たってますよ

その遊びは、これまでの遊びよりも残酷で、残忍で、私の尊厳を踏みにじるよう

な……そんな遊びでしたから

では、初めから説明していきましょうか

三日目に剣士様が私に対して行ったのは、寝取られ懺悔ゲームという遊びです
どういう遊びかというと、その……寝取られてすいませんという謝罪を、村の家
を一軒一軒回って行うという遊び……です

村の人達が私達を恐れている、という話はしましたよね？

私を魔女と呼んだり、あなたを魔女の従僕と呼んだり

そんな村の人達に対して剣士様が行ったのは、魔女を無力化したことを証明す
ることでした

依頼を完遂し、魔女の無力化に成功した、魔女とその従僕の心をへし折ったと言
ってまわり……私達が無害な存在だと知らしめたのです

そこだけを見れば善行のように思えるのですが、剣士様がとった方法は最低
最悪でした

私に首輪を付け、媚薬を飲ませたあと犬のように村を歩かせて……村人達の
前で、辱める

最後の一軒を回るまで耐えれば遊びは終了……そんな内容です

ちなみに下着は全て没収されました

乳首とアソコが丸出しの服を着せられて、トイレはもちろん野外

食料も家畜用の皿にのせられた残飯

加えて命令には喘ぎ声で返事しろ、村人には一切反抗するなという命令も与えられました

ホントに奴隷みたいに扱われて……私の声が小さくなってきたら、上から媚薬を浴びせて無理やり声をあげさせられました

村に着くまでに、媚薬を三杯は浴びせられましたかね

到着した時には身体が震え、お汁も垂れ流しの状態でした

発情した犬のようになっていましたが……剣士様はそんなこと全く意に介さない様子でした

そうして一軒目に到着した私は、事前に仕込まれていた謝罪の言葉を土下座しながら述べました

「私は魔女として君臨し従僕と愛を育てておりましたが、剣士様に快楽を刻まれ寝取られてしまいました。快楽に負け、メス犬に堕ちた私をどうかお許しください。謝罪として、今から私の痴態をご覧にいます」

言葉を言い終えた瞬間、剣士様は私のお尻を思い切り叩きました

媚薬で快感を限界まで高められていた私は絶頂し、思わず……その場で、お漏らしをしてしまいました

身体を震わせ、お尻を突き出した体勢のまま失禁してしまったのです

怒られる……そう思った次の瞬間です

剣士様は私の身体を椅子代わりにすると、馬にするように私のお尻を何度も叩き始めました

こいつは覚えが悪いんですよって下品に笑いながら、何度も何度も

反抗しようと思っても身体はついてこなくて……叩かれれば叩かれるだけ、潮を吹いて悦んでいました

腰をへこへこさせて、あんっあんって喘ぎながらうずくまるだけ

そうしている内に剣士様と村の人の話は終わっていて……剣士様は二軒目の家へと進み始めました

私は、呼吸を必死に整えながら進んだのですが……次の家に着いた瞬間、その努力は全て無駄になりました

謝罪、駄げ、絶頂……この流れを、何度も繰り返し行うのです

剣士様は私の心を徹底的に折るように、時に乳首を、時にアソコを、時にお尻を、私のあらゆる弱点を入念に舐ってきました

村の人達はそんな私を見て笑い、たまに剣士様と一緒にあって私の身体を欲望のままいじめてくる

あまり言いたくはないですが……精液を飲み物の代わりに飲まされたり、残飯に精液をかけられたり、野菜をアソコにねじ込まれたり……剣士様も村の人も、私のことを人間扱いしていませんでした

ホントに、ただの動物……あの一日で、村の人達は私を無害なただのメス犬だと認識したでしょう

そして最後の家での謝罪を終えた時……私のアソコとお尻は、完全に開きっぱなしになっていました

下品な音をたてながら精液や愛液を垂れ流し、つい最近まで処女だったなんて誰にも信じてもらえないくらい……ガバガバの穴になっていました

でも、これで三日間にわたる剣士様の横暴は終わりを告げました

酷い仕打ちを受けたけど、やっと解放される……何度も尊厳を踏みにじられてきたけど、これで報われる……私はふらふらになりながら、村から出ようとした

ですが、剣士様は首輪から手を離してくれません

困惑する私に彼はこう告げました

「最後の罰として、村長に種付けしてもらえ」と

剣士様が何を言っているのか、私には分かりませんでした

彼の横には丸々と太った村長が立っていて……下半身丸出しの状態で息を荒くしていました

その瞬間私の中で何かが弾け、気づけば必死に逃げ出していました

これまでは私が我慢すればどうにかなるのだと……あなたも私も平穏に暮らせるのだと、そう信じていました

ですが村長に……あの小汚い巨漢に種付けなんてされたら、私の中の何かが壊れてしまう……そんな予感がありました

ですが、私の腰は抜けて膝も笑っている状態

そんな状態で逃げるなど出来るはずもありませんでした

大きな手で腰を掴まれた私はそのまま……

ふふ、続きが気になりますか？

でしたら、はい、これ

あの性格の悪い剣士様が、その時の記録を残していないはずがありません

私の痴態をニヤニヤと楽しそうに……その魔具に記録していました

あなた、それ……聞きたいんですよ

言わなくたって、分かりますよ

だってあなたのアソコ……破裂しそうなくらい膨らんでます

ホントにどうしようもない人……でも、いいです

あなただけには聞かれたくなかったけど、いいです

だってもう、これで終わりなんですよもんね？

この報告を最後に……あなたが全部、上書きしてくれるんですよね？

だったら……この記録を聞かせてあげます

私も聞きたくない、最悪の記録

……じゃあ、再生しますね

はっ、はっ……ちょ、ちょっと……村長さん、なに、してるんです？

私の懺悔は、もう終わりましたよ？

どうして私の腰を掴んでいるんですか？

罰もたくさん受けましたし、あなた方に何かしようなんて考えは全くありません

ただ、私は平穏に暮らしたいだけ……それだけなんです

お願いします、お願いしますから……このまま帰らせてくださ……あゝ っつつっ♡

♡♡♡

ご、があ……♡♡おゝ っ、ぐああああ……♡♡ちょ、ま……がはっ……♡♡

あゝ んっ、あゝ あゝ っ♡うゝ あああ……♡♡

くる、しい……お腹が、ぱんっぱんに……♡

村長さんのきったないのが、私の中、えぐってくる……♡

マジでさい、あくぅ……♡きもい、このキモデブ村長、マジできもい……♡

臭いしキモいし、ホント終わって……あゝ あゝ あゝ っ♡♡♡♡

膣えぐるのやめろっ♡マジでやめろっ♡てかあなたゴムしてないでしょ……♡

ありえないっ♡マジでありえないからアンタああっ♡♡

私にこんなことしていいと思って……あゝ えゝ えゝ えゝ っ♡

あゝ あゝ ～♡♡♡♡媚薬、びやくのせいだからあ♡

私がこんなに潮吹いてんの、媚薬のせいだからああ♡♡

普段の私ならこんな声出さないからっ♡失禁も潮吹きもしないんだからあ♡♡

いぐっ♡いぐいぐうっっ♡♡やだっ♡こんなキモイおっさんにイかされんのマ

ジでやだあ♡♡

離せ、はな……がっ♡あはあゝ あゝ あゝ っ♡♡おゝ っ♡あんんんっ♡♡

がはっ♡うゝ っ♡うゝ うゝ うゝ っ♡あゝ ～～もれる♡

キモいおっさんの前でもらしちゃうってえ～～♡♡

ありえない♡マジでありえない♡♡

こんなおっさんに膣えぐられて失禁するとか、女として終わるってええ♡♡

私、元聖女なのにな♡♡首輪つけられて、おっさんにイかされて……♡♡

こんな扱い、マジで家畜じゃんかああ♡♡

許さないっ、許さないいいっ♡♡

あんたらみたいなクズ、絶対ゆるさな……あゝ えゝ っっっ♡♡♡♡

あ……がっ♡♡おゝ っ♡ううんゝ っ♡ほおゝ おゝ ……♡♡んぎゅうう……♡♡

お……ごお……♡♡おんんゝ ……うゝ あゝ あゝ あゝ あゝ ～♡♡♡♡

がっ……♡が、はあ……♡んゝ ～♡♡♡んうゝ うゝ ～♡♡♡♡

おあゝ あゝ あゝ ……♡♡は、へえ……♡♡♡

う、わ～～……これはちょっとヤバいです、ね

正直自分でも引いたっていうか……私って、こんな下品な声で啼いてたんです

ね

村長さんに犯されて、中出しされて、おもらしして……なにが元聖女なんだって

言いたくなりますよね

あなたの前では決して言わないようなこともたくさん言ってましたし……幻滅

しました、よね

あはは、ホントに……私って、どうしようもない女です

酒に溺れて、自堕落な生活を送って、あなたに迷惑かけて……果てには、村の人達全員にいいようにされちゃって

こんなのと一緒にいたら、あなたも笑われちゃいます

よくよく考えたら、私はあなたというべきじゃないのかも……え？

君は黒聖女なんだから、どんな姿に堕ちたっていい、ですか？

私がどんなに堕ちても、落ちぶれ黒騎士の自分なら受け止めきれって……も

しかして出会った時に私が言った言葉、まだ覚えてたんですか？

あはは……なんですかそれ、カッコつけてるつもりですか

ダサいですよ、全然似合ってません

似合ってませんけど……少し、元気出ました

あなたといたら、こんな自分でもいいのかもって……ちょっとだけ、思える気がします

それに、この後はあなたが私のナカ、上書きしてくれるんですよね？

今だったらあなたともできそうですし……今夜はとことんイチャラブしちゃいましょう

今は何もかも忘れて、私と一緒に堕ちちゃいましょうね……

あなたと堕ちるのなら、私……何も怖くありません、から

だからこれからもずっと……一緒にいてください、ね

エピローグ

はあ……ホントに来たんですね、剣士様

しかもこんな真夜中に……迷惑って言葉を知らないんですか？

確かに私が村を出る時「今度、全部上書きしてやるから待ってろ」なんてあなた

はほざいてましたが……まさかホントに来るなんて

呆れて何も言えませ……はい？私、ですか？

別に期待なんてしてませんよ

ただ、急にあなたが来たらあの人が不安がってしまうので、念のため起きていた

だけです

ホントに……ただ、それだけです

……それで？今から何をするつもりなんです？

あの方は今寝てるんですから、あんまり騒がしくしないでくださいよ

あの方に迷惑をかけるのだけは、絶対に許さな……は？

騒がしくなるかは私次第、ですか？

すいません、意味が分かりません……って、ちょ！？

なにをいきなり脱いでるんですか！

そんな汚いもの見せないで……くだ……さい

え……ちょ……でっか……

あの人よりも、村長よりも……デカくて、長くて……女の人を、壊すカタチ、してる

あ、りえない……マジで、ありえないって……

もしかして、三日間の間にあなたが私を犯さなかったのって……あの時の私じゃ、それが入りきらなかったから？

だから、村の人達に私を犯させて、それが入るように広げた……ってこと？

で、それを今から、私のナカに……？

い、いやいやいやいや、どう考えても無理でしょこれ

無理、ムリだって……！近づいてこないで……！

もしかして、騒がしくなるのは私次第って……それをぶち込まれても、声をあげるなってこと？

そんなの無理に決まって……こ、こら！スカートめくんな！

濡れてない！濡れてないから！

触んな……触んなあ……！

ありえない、ホントありえない

せっかく今日あの人に上書きしてもらったのに……これからはずっと一緒だっ

て約束したのに……こんなの絶対ありえな……おごっっっ♡♡♡♡

お……がはっ……♡♡ご、へえ……♡♡あがっ♡んええええ……♡♡

おうゝ うゝ っ♡かひゅっ……はっ、はっ、はああ……いき、できな、い……♡

なに、これ……頭、トびそう……♡

膣、全部えぐられて……ぞりぞりって、削られてる……♡

子宮小突かれて、なんか、軽くイって……力、入らない

や、ば……立ってらんない……腰、抜け……あゝ あゝ っっっ♡♡♡♡

あゝ っ♡んあゝ あゝ あっ♡突き上げるのやめてっ♡♡

私の重さで、奥まで突き刺さって……があゝ あゝ っ♡♡

あゝ っ♡あゝ っ♡あゝ っ♡あゝ っ♡あゝ っ♡あんゝ んゝ んゝ っ♡♡

おうゝ っ♡おゝ っ♡うぐっ♡あがっ♡んiiiiiiっっ♡♡

えあゝ ～～♡♡マンコ潰れる～～♡♡潰れるってえ～～♡♡♡♡

声ガマンとか絶対ムリだってこんなの……♡♡♡♡

チンコでマンコ殴られたらもうなんもできないんだってえ……♡♡♡♡

今でもう二回はイったっ♡だからもうやめ……ひぐっっ♡♡

いきなり乳首吸うなバカっ♡

あんたに散々いじめられたせいで、私の乳首おかしくなって……あゝ うゝ んっ

♡♡

あゝ うゝ ～♡♡うゝ ～♡♡んふうゝ うゝ うゝ ～♡♡

いやあゝ ～♡♡乳首吸うのやめてえ……♡♡

はうゝ んゝ っ♡♡うあああ……噛むのもだめええ……♡♡

声、でちゃうから……♡♡ホントに、あの人にバレちゃうから……♡♡

だから、もうこれ以上は……は？

キスハメなら声もれないからいいだろうって……いや、ダメに決まってるでしょ

あの人以外とキスなんて、絶対だめ……ねえ、ホントにやめ……じゅるるる

うううっ！？

んんぶっ♡じゅぞっ♡じゅるっ♡じゅるるるうっ♡んぶっ♡んんんぶっ♡♡

じゅっ♡じゅぞぞっ♡んぶううっ♡じゅるるっ、んじゅう～～っ♡♡じゅっ♡

じゅぽっ♡じゅぞぞぞっ♡じゅぶっ♡じゅるっ♡んぶうううっ♡♡

じゅっ、じゅぞっ、じゅううう～～っ♡♡

……ぶあっ！あ～～、ああ～～♡

も、おわり……これでもう、おわりなんだからあ……♡♡

だからもう、解放して……え、ど、どこ連れて行くの？

二階……？だ、だめ……それはホントにだめだって

今はあの人が寝てて……ねえ、聞してる？

ベッドだって一緒の部屋なの

同じ部屋でするわけじゃないのよね？

ねえって……その扉、空けちゃダメだって……！

お願い、お願いだから……私のこんなところ、知られたくないの

だからやめて……押し倒しちゃ嫌ああ……！

許して、許し……あゝ あゝ んっ っ♡♡♡♡

うっ♡おゝ っ♡おゝ んっ♡おゝ おゝ んっ♡あゝ あゝ あゝ あゝ あゝ っ♡

おゝ っほ♡おゝ うっ♡あゝ んっ♡んひあ♡あゝ はあっ♡ああゝ ん♡あうゝ っ♡

おっほ♡おゝ ん♡あっは♡あゝ あゝ あゝ あゝ うっ♡♡

あゝ♡やば♡いぎゅ♡いっぎゅううう♡♡おゝ ひいつ♡あゝ あゝ っ♡おゝ ん

っ♡おあゝ あゝ っ♡おっほ♡あうゝ うゝ んっ♡

もうやめ……あゝ あゝ んっ♡いうゝ うゝ♡いぐっ♡いぐうっ♡いぐう~~~~

あゝ っ♡おあゝ あゝ っ♡んおゝ♡あうゝ うゝ っ♡あはあっ♡

んっひ♡ひいいん♡

やああ♡おゝ ほおお♡あっは♡あゝ あゝ あゝ っ♡またいぐっ♡

いぐいぐいぐっ♡いぐうううんっ♡♡

あゝ あゝ あゝ あゝ っ♡いった♡いったからああ♡

ヤバいって♡マジでヤバいってばああ♡もおいぐのむりいゝ いゝ いゝ いゝ っ

♡

マジで墮ちちゃ……………あゝ あゝ んっっっっ♡♡♡♡

あゝ —————っ……♡ああゝ —————っ……♡

あゝ んっ♡ああゝ んっ♡……中出し、され……♡おおゝ んっ♡おっほ♡あひ♡

おうゝ っ♡ああゝ んっ♡おっほおおおお……♡

かひゅっ……ふーっ……ふうーっ……♡

はあ……はああ……♡

あは……やっぱり起きてた、ね

私が剣士様に抱き潰される所、そんなに見たかったんだ

……私、ね？今日、ホントの黒聖女に墮ちたよ

これまでは、聖女だった頃の自分に少し未練があったんだけど……全部、剣士様に暴かれちゃった

ていうか今日っていうより……あの村にいた時に、すでに墮とされてたのかも

ね

あ、でも……あなたのことは、ずっと好き

あなただって……私がどんな姿に堕ちても、受け入れてくれるんでしょ？

じゃあ……いいね

このまま私と一緒に、どこまでも堕ちていこうね……今日はもう、おやすみ……

了